

平成 24 年度 伊勢湾再生に向けた取り組み報告

1. 平成 24 年度の伊勢湾再生に向けた取り組み報告について

第 7 回伊勢湾再生推進会議（平成 23 年 3 月 23 日開催）で「行動計画には環境指標や施策指標に具体的な目標値が示されていないため、達成状況を定量的に評価することが困難」、「施策等は着実に実施されているが、環境指標に明確な改善傾向が認められず、伊勢湾再生の効果が分かりづらい」の課題が挙げられた。

この課題を踏まえ、伊勢湾再生行動計画の見直しに向けた検討を行ってきたが、平成 23 年度の 1 ヶ年では検討が完了しなかったため、引き続き 24 年度の 2 ヶ年にわたり検討を進めてきた。

今回の第 8 回伊勢湾再生推進会議は、2 ヶ年分の検討結果について報告するものである。なお、平成 23 年度は、第 9 回伊勢湾再生推進会議連絡調整会議（平成 24 年 3 月 9 日開催）を開催し、伊勢湾再生行動計画の見直しに向けた検討の途中経過を報告した。

1.1 平成 23 年度の取り組み方針（第 7 回伊勢湾再生推進会議）

第 7 回伊勢湾再生推進会議（平成 23 年 3 月 23 日開催）で示した平成 23 年度の取り組み方針は、以下のとおりであり、この方針に沿って平成 23 年度の検討を行ってきた。

ただし、前述のとおり、平成 23 年度の 1 カ年では十分な検討および議論ができなかったことから、引き続き平成 24 年度も取り組みを進めてきた。

行動計画の推進・フォローアップ

- 行動計画を着実に推進し、施策の進捗管理を行う。
- 次期中間評価に向け必要な基礎データの集約を行なう。
- 「中間評価結果」、「環境劣化・再生メカニズムの整理」、「市民団体等との連携」等の実態を踏まえ、行動計画の見直しを行なう。

環境劣化メカニズム(汚濁機構)・再生メカニズムの解明・整理に向けて

- モニタリング計画に従い、伊勢湾流域圏の水質等の監視を行なう。
- 伊勢湾シミュレーター等を活用して汚濁機構・再生メカニズムを検討する。

多様な主体との連携促進

- 研究者、NPO、市民団体との情報交換・連携を継続する。
 - ・ 伊勢湾再生流域圏研究会
 - ・ 伊勢湾流域圏再生ネットワーク
- 「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」の継続

図 1 平成 23 年度の取り組み方針

行動計画の見直し方針

1. 中間評価結果における課題

- 行動計画策定から3年が経過し、行動計画に掲載されている施策には完了したもの、未掲載ながら実施しているもの、新規に取り組まれたものがあり、施策群の整理が必要である。
- 行動計画には環境指標や施策指標に具体的な目標値が示されていないため、達成状況を定量的に評価することが困難である。
- 施策等は着実に実施されているが、環境指標に明確な改善傾向が認められず、伊勢湾再生の効果が分かりづらい。

2. 検討方針

今後、確実に行動計画の目標を達成していくため、次年度に以下の方針で行動計画の見直しを検討する。

- (1) 施策群の見直し・・・完了した施策の区分、同一内容の施策の統合、機関ごとの統一的な施策の整理、今後行う施策の追加
 - (2) アピールポイントの検討・・・候補地の整理、将来像の設定
 - (3) 数値目標の検討・・・伊勢湾全体及びアピールポイントごとの数値目標（水質、施策実施量）の検討
 - (4) 行動計画本文の追加・修正・・・(1)～(3)の検討内容を踏まえた追加・修正等
- ※アピールポイント：一般の市民・住民へ行動計画の取り組み状況を身近に実感してもらえる場

3. 見直しフロー

年 度	検 討 内 容			
	施策群の見直し	アピールポイント	数値目標	行動計画本文
平成22年度	施策群の区分、統合・追加	候補地の整理		
平成23年度		将来像の設定	数値目標の検討	追加・修正
行動計画改定版(案)の提示 行動計画改定版の公表				

第 7 回伊勢湾再生推進会議（平成 23 年 3 月 23 日開催）の資料

図 2 行動計画の見直し方針

2. 行動計画の推進・フォローアップ

2.1 各種会議の開催状況

平成 23 年度、24 年度に実施した各種会議は以下のとおりである。

(1) 第 1 回関係機関ワーキング・第 1 回モニタリングワーキング（合同開催）

日時：平成 23 年 4 月 28 日 於：名古屋合同庁舎第 2 号館 7 階大会議室

- ・ 平成 22 年度の取り組み内容の確認
- ・ 平成 23 年度の取り組み方針及び平成 23 年度スケジュール案の審議
- ・ 「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」の実施方針、体制の確認 4 階大会議室

(2) 第 2 回関係機関ワーキング・第 2 回モニタリングワーキング（合同開催）

日時：平成 23 年 11 月 10 日 於：名古屋合同庁舎第 2 号館 4 階大会議室

- ・ 平成 23 年度の取り組み内容の確認
- ・ 行動計画の見直し方針の審議（施策群の見直し、アピールポイント、数値目標）
- ・ 平成 23 年度一斉モニタリング速報版の報告

(3) 第 3 回関係機関ワーキング・第 3 回モニタリングワーキング（合同開催）

日時：平成 24 年 1 月 30 日 於：愛知県産業貿易館 西館 8 階北会議室

- ・ 行動計画の見直し内容の審議（施策群の見直し、数値目標の検討（案）、アピールエリアの検討（案））
- ・ 数値シミュレーション結果（速報版）の報告
- ・ 平成 23 年度一斉モニタリング確定版の確認
- ・ 水質調査結果（出水時・平常時）の報告

(4) 第 4 回関係機関ワーキング・第 4 回モニタリングワーキング（合同開催）

日時：平成 24 年 2 月 27 日 於：名古屋合同庁舎第 2 号館 4 階大会議室

- ・ 行動計画の見直し内容の審議（施策群の見直し、数値目標の検討（案）、アピールエリアの検討（案））
- ・ 数値シミュレーション結果の報告
- ・ 平成 24 年度取り組み方針の協議
- ・ 平成 24 年度一斉モニタリングの実施方針の確認

(5) 第 9 回伊勢湾再生推進会議 連絡調整会議

日時：平成 24 年 3 月 9 日 於：愛知県産業貿易館 西館 8 階北会議室

- ・ 平成 23 年度伊勢湾再生に向けた取り組みについて
- ・ 平成 24 年度の取り組み方針について

(6) 第 1 回関係機関ワーキング・第 1 回モニタリングワーキング（合同開催）

日時：平成 24 年 5 月 11 日 於：愛知県産業貿易館 西館 8 階北会議室

- ・ 平成 23 年度の取り組み内容の報告
- ・ 平成 24 年度の取り組み方針及び平成 24 年度スケジュール案の審議
- ・ 平成 24 年度伊勢湾流域圏一斉モニタリングの実施方針、体制の確認

(7) 第 2 回関係機関ワーキング・第 2 回モニタリングワーキング（合同開催）

日時：平成 24 年 10 月 17 日 於：愛知県産業貿易館 西館 8 階北会議室

- ・ 平成 24 年度の取り組み方針・内容の確認
- ・ 伊勢湾再生行動計画の見直し方針の審議
（施策群の見直し、数値目標、アピールエリア）
- ・ 平成 24 年度伊勢湾流域圏一斉モニタリング(速報版)の報告

(8) 第 3 回関係機関ワーキング・第 3 回モニタリングワーキング（合同開催）

日時：平成 24 年 12 月 26 日 於：愛知県産業貿易館 西館 8 階北会議室

- ・ 伊勢湾再生行動計画の見直し内容の審議
（施策群の見直し、数値目標、アピールエリア）
- ・ 伊勢湾再生行動計画の本文の見直し内容の審議
- ・ 平成 25 年度一斉モニタリングの実施方針の確認

(9) 第 4 回関係機関ワーキング・第 4 回モニタリングワーキング（合同開催）

日時：平成 25 年 2 月 13 日 於：愛知県産業貿易館 西館 8 階北会議室

- ・ 各機関からの意見と対応
- ・ 連絡調整会議資料の確認
- ・ 平成 24 年度伊勢湾再生に向けた取り組み報告
- ・ 第 1 回中間評価の対応について
- ・ 平成 25 年度の取り組み方針について

(10) 第 10 回伊勢湾再生推進会議 連絡調整会議

日時：平成 25 年 2 月 27 日 於：名古屋合同庁舎 第 2 号館 8 階大会議室

- ・ 平成 24 年度伊勢湾再生に向けた取り組みについて
- ・ 第 1 回中間評価の対応について
- ・ 平成 25 年度の取り組み方針について

2.2 第 1 回中間評価の対応について

第 1 回中間評価の対応（伊勢湾再生行動計画の見直し）については、資料 2 に記載する。

2.3 伊勢湾の環境指標の整理

伊勢湾の環境の状態を示す環境指標について、過去から現在までの変化傾向を整理した。

(1) 川に関する指標

1) 河川の環境基準達成率

この 10 年間で BOD の環境基準達成率が向上しており、伊勢湾に流入する汚濁負荷量は着実に減少している。また、東京湾及び大阪湾に比べ環境基準達成率は高水準を維持しており河川の水質環境は比較的良好である。

しかし、海域の環境基準達成率に改善傾向は認められず、陸域の汚濁負荷削減が即時に海域の水質改善に結びつくわけではなく、陸域と海域の水質変化を長期的に捉える必要がある。

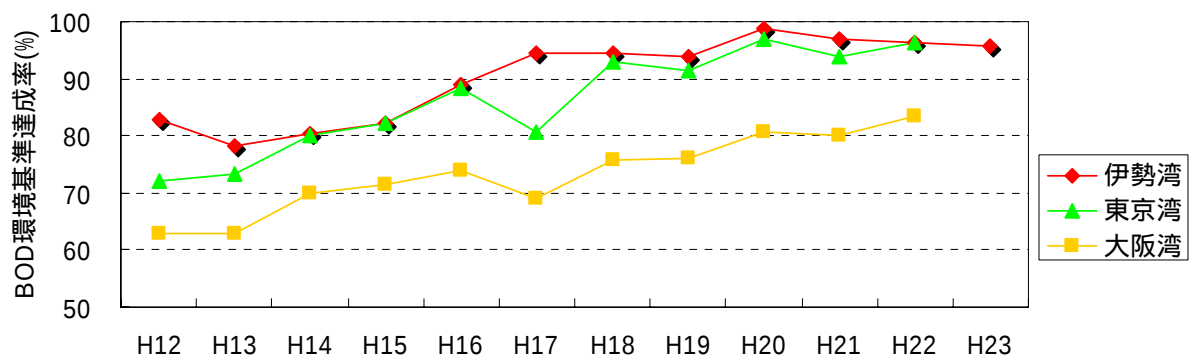


図 3 河川の環境基準達成率 (BOD) の経年変化

(2) 海に関する指標

1) 海域の環境基準達成率

伊勢湾の環境基準達成率は、COD は横ばい、T-N、T-P は年によって変動を示すが、海域の顕著な水質改善は認められない。

他の閉鎖性水域である東京湾、大阪湾の環境基準達成率は、ほぼ横ばいである。

海域の水質改善に向けて、今後も陸域の負荷削減策を図るとともに、海域の水質改善施策も積極的に実施する必要がある。

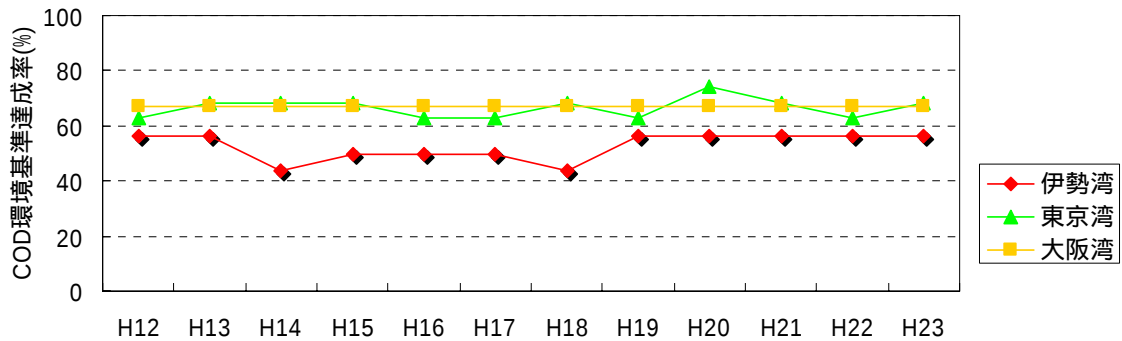


図 4 三大湾の環境基準達成率（COD、水域毎に評価）の経年変化

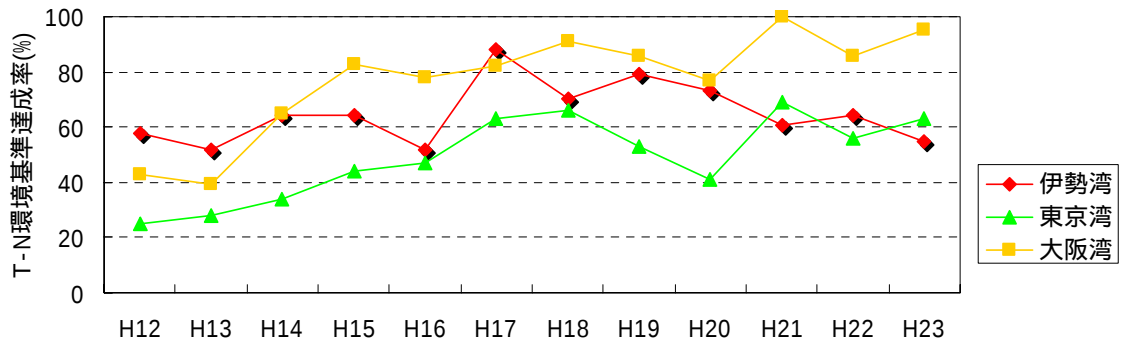


図 5 三大湾の環境基準適合率（T-N、地点毎に評価）の経年変化

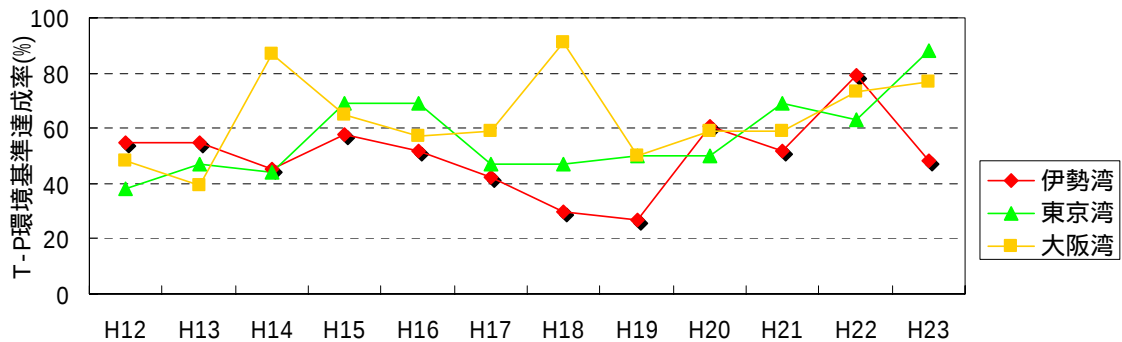


図 6 三大湾の環境基準適合率（T-P、地点毎に評価）の経年変化

2) 赤潮・苦潮発生回数

赤潮発生回数は平成 15 年度以降、減少傾向が認められ、陸域からの汚濁負荷削減が赤潮発生減少に寄与している可能性がある。一方、苦潮発生回数はほぼ横ばいで海域に蓄積された汚濁物質や気象・海象の影響を大きく受けているものと考えられる。

引き続き発生回数や発生区域をモニタリングする必要がある。

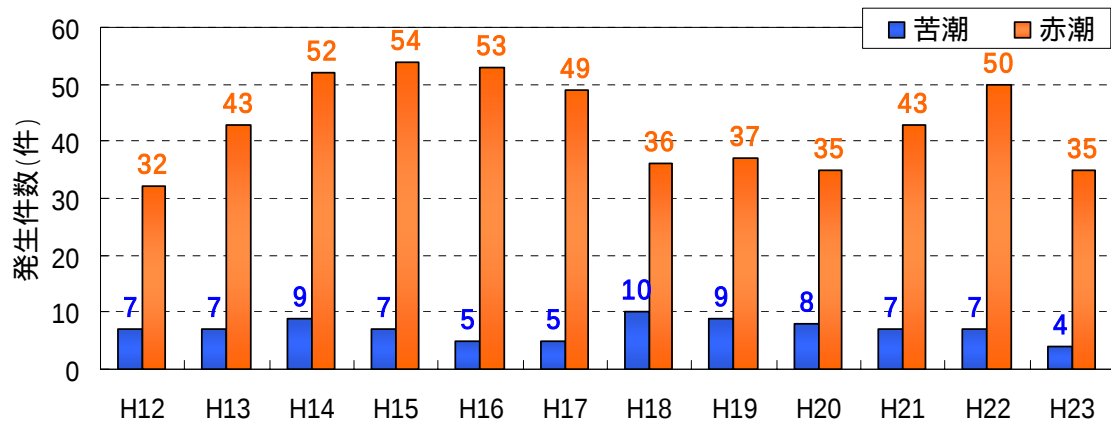


図 7 赤潮・苦潮発生回数の経年変化

3) 漁獲量

漁業経営体数は愛知県及び三重県ともに、減少傾向である。

漁獲量は 1980～1985 年頃にピークを迎え、減少傾向である。近年の三重県では増加傾向である一方、愛知県では横ばいもしくはやや増加傾向である。

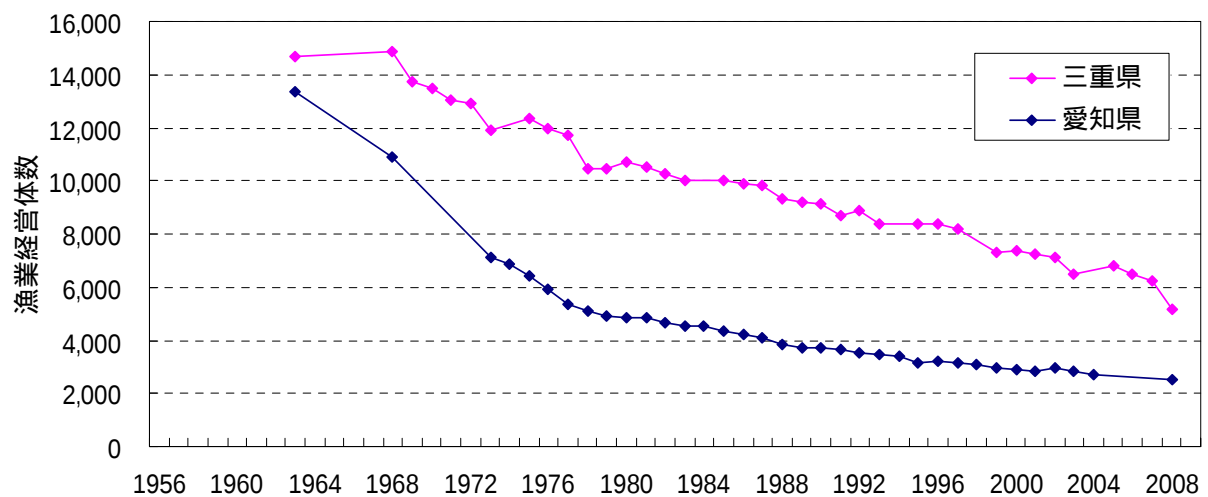
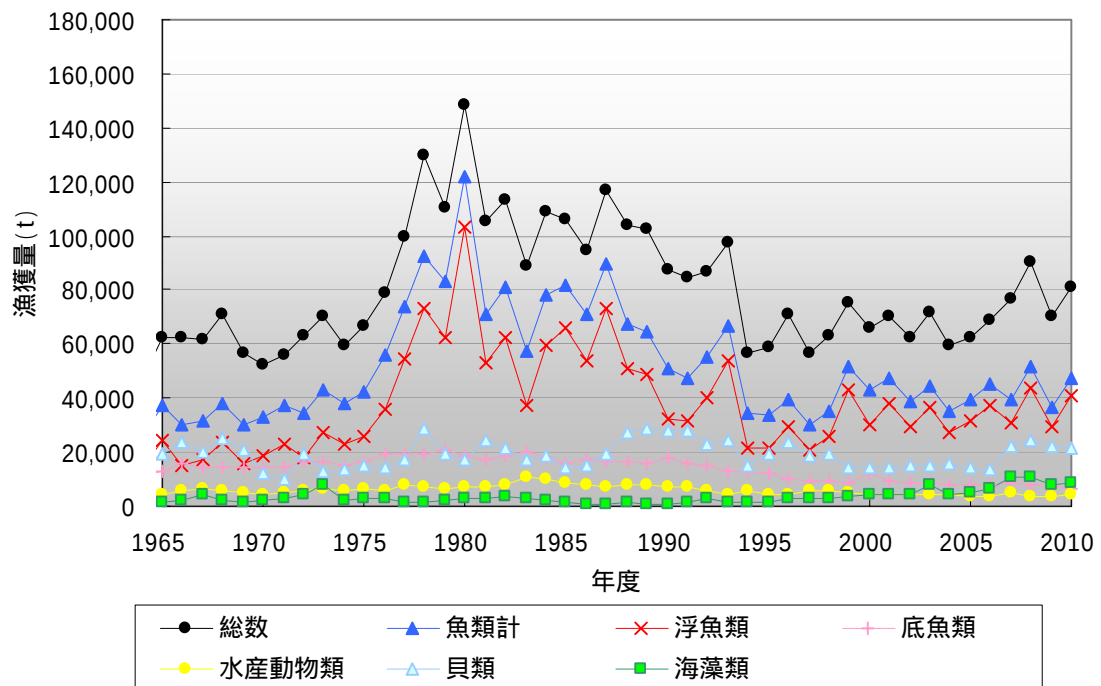


図 8 漁業経営体数

< 愛知県 >



< 三重県 >

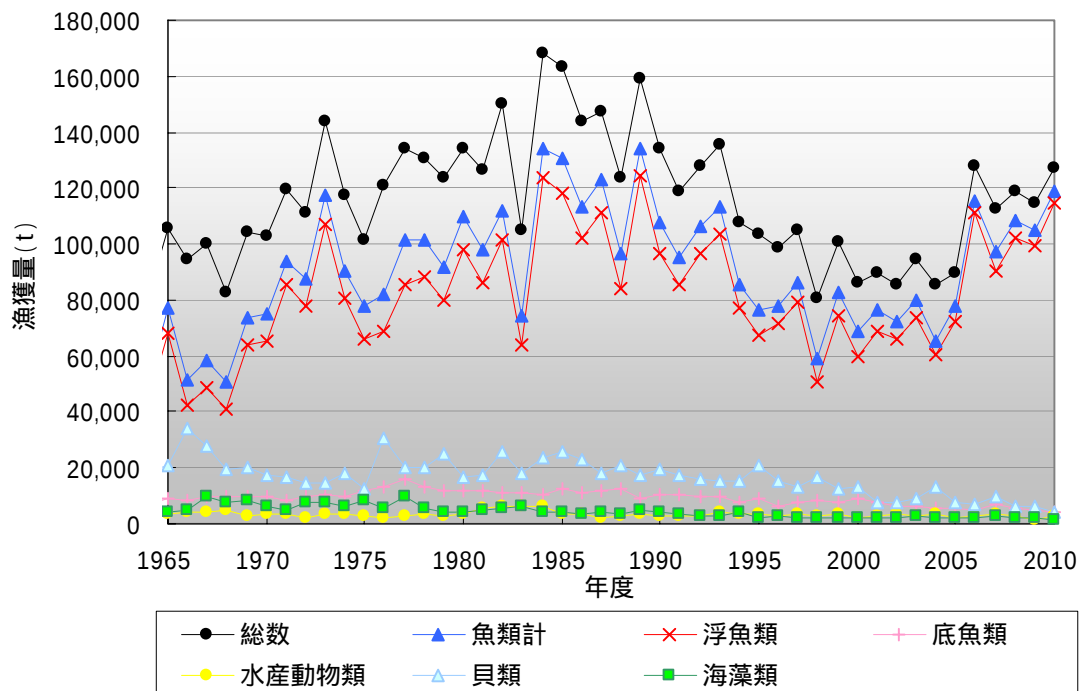


図 1 愛知県、三重県の漁獲量の推移

4) 底層 DO

夏季（7～9月）最低値は、冬季（12～2月）最低値に比べ低い値を示し、夏季では広い範囲で低酸素状態となっている。夏季最低値は伊勢湾の湾口部（St.18）や三河湾西部（K-5）では外海、潮流及び流入河川等の影響で比較的高い値を示すが、その他の地点（St.2、St.9、N-8、A-5）で、生物が生息できないとされる値 2mg/l を下回っており、伊勢湾（狭義）の湾中央部から湾奥部、三河湾東部で貧酸素状態となっている。

底層 DO の悪化は苦潮の原因ともなることから、今後とも観測を継続し注視していく必要がある。

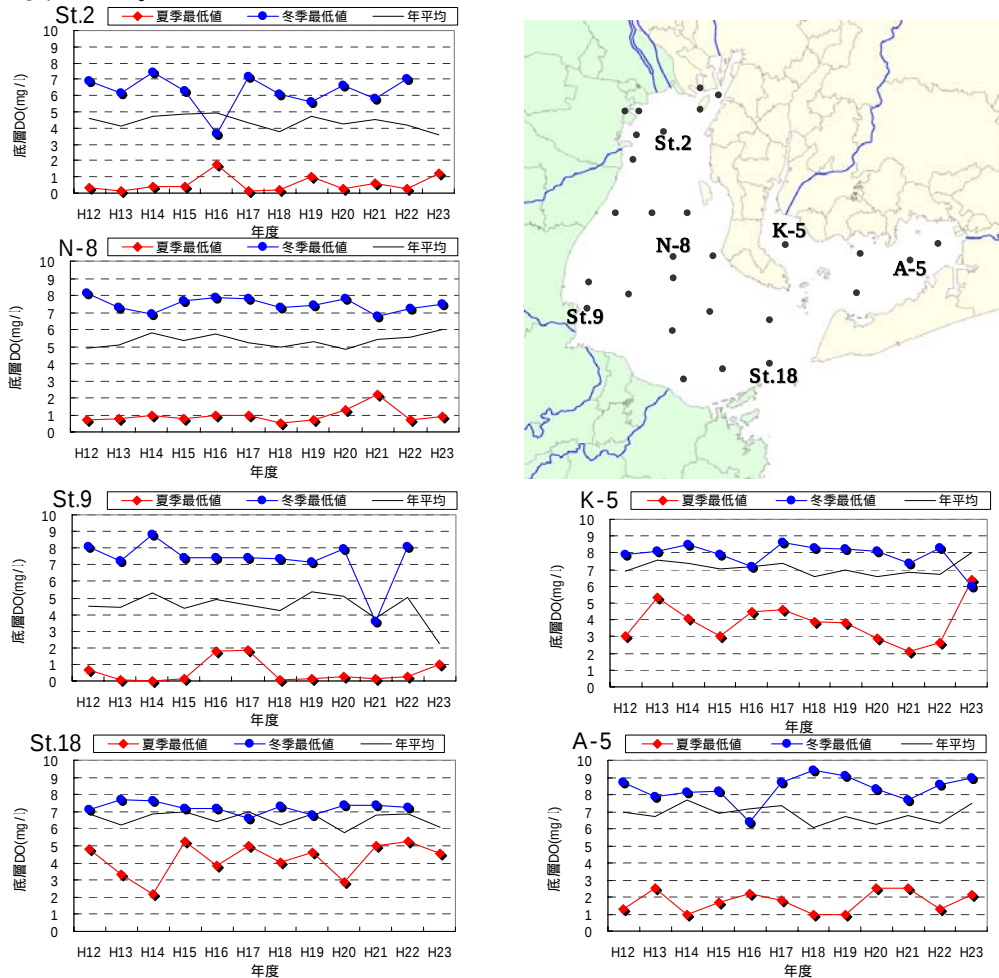


図 9 底層 DO の経年変化

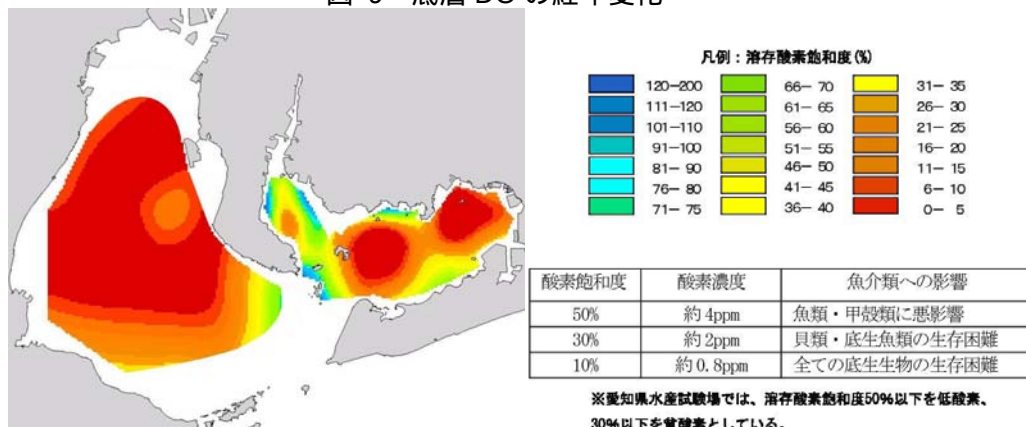
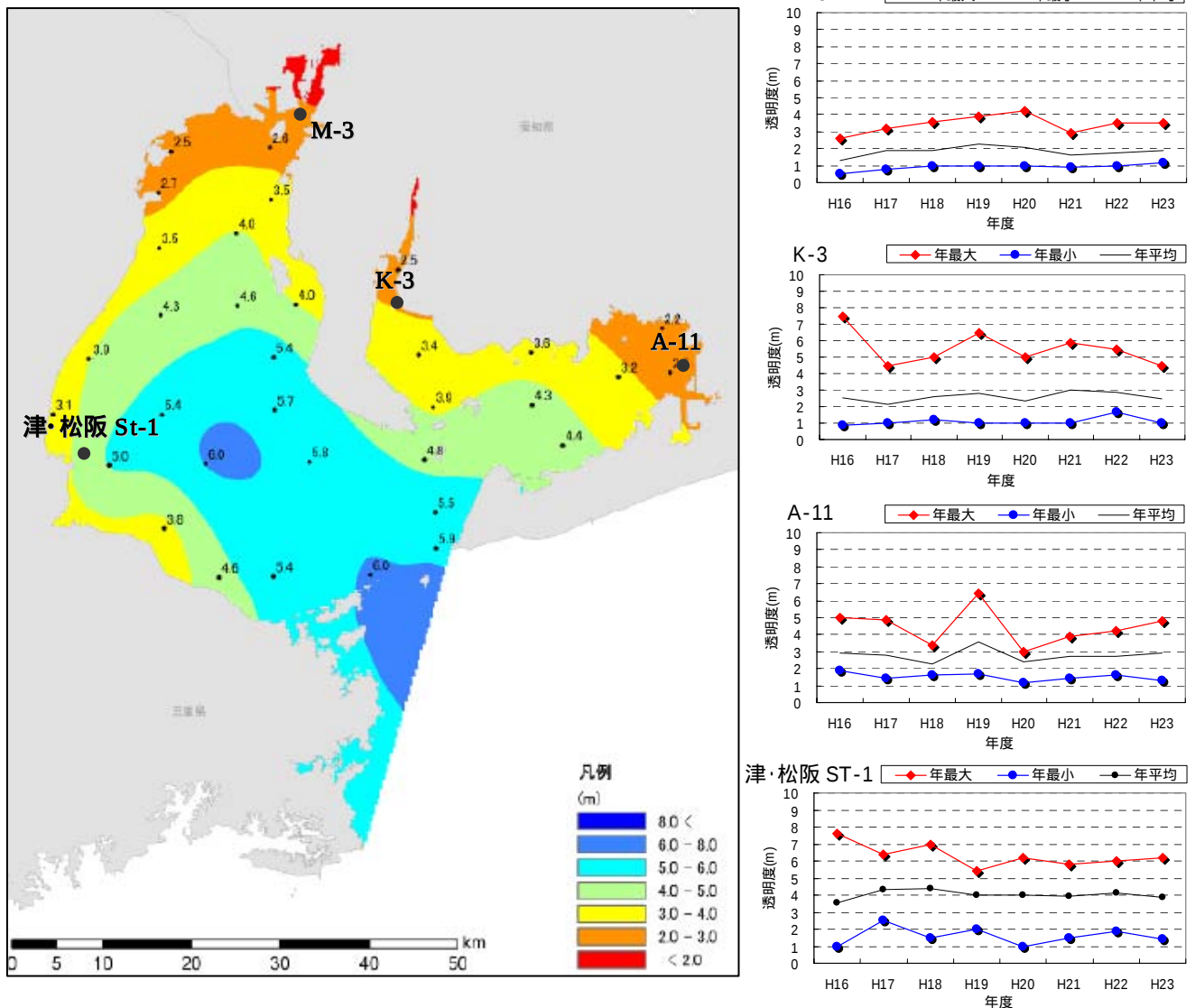


図 10 平成 24 年 8 月の溶解酸素飽和度分布（伊勢湾・三河湾：8 月 22 日、27 日）

5) 透明度

水が滞留しやすい湾奥(M-3、K-3、A-11)で透明度の低下が見られ、湾中央や湾口部(St-1)では外海や潮流による影響で高い値を示している。

透明度は、人々の快適な利用に必要なことから、今後とも観測を継続し注視していく必要がある。



左：H18～H20 年の平均値の分布（閉鎖性海域中長期ビジョン H22 年 3 月）、右：経年変化

図 11 透明度の分布

2.4 伊勢湾再生行動計画の実施状況の整理

伊勢湾再生行動計画に記載されている施策（165 施策）の実施状況は以下のとおりである。

< 平成 24 年度の施策実施状況 >

- ・ 前年度に 6 つの施策が完了し、平成 24 年度は 131 の施策を実施した。

< 平成 18 年度以降の施策実施状況 >

- ・ 伊勢湾再生行動計画の策定後（平成 19 年 3 月）未実施の施策数が大幅に減少し、多くの施策に取り組んでいる。
- ・ 年々完了する施策が増加している。特に、平成 20～23 年度に完了する施策数が増加している。
- ・ 行動計画に記載されている施策以外の追加の施策を含めると、合計 205 の施策が実施されている。

表 1 施策実施状況

分類	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成24年度 (追加の施策を含む)
森	未実施	3 (15.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	実施中	16 (84.2%)	19 (100.0%)	19 (100.0%)	19 (100.0%)	19 (100.0%)	19 (100.0%)	22 (100.0%)
	終了	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	計	19	19	19	19	19	19	22
川	未実施	5 (7.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	実施中	60 (92.3%)	65 (100.0%)	62 (95.4%)	61 (93.8%)	60 (92.3%)	56 (86.2%)	64 (86.5%)
	終了	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (4.6%)	4 (6.2%)	5 (7.7%)	9 (13.8%)	10 (13.5%)
	計	65	65	65	65	65	65	74
海	未実施	11 (33.3%)	2 (6.1%)	2 (6.1%)	2 (6.1%)	1 (3.0%)	1 (3.0%)	1 (2.2%)
	実施中	22 (66.7%)	29 (87.9%)	24 (72.7%)	22 (66.7%)	19 (57.6%)	19 (57.6%)	31 (68.9%)
	終了	0 (0.0%)	2 (6.1%)	7 (21.2%)	9 (27.3%)	12 (36.4%)	13 (39.4%)	13 (28.9%)
	計	33	33	33	33	33	33	45
人	未実施	13 (27.1%)	2 (4.2%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	実施中	34 (70.8%)	42 (87.5%)	42 (87.5%)	41 (85.4%)	38 (79.2%)	37 (77.1%)	53 (82.8%)
	終了	1 (2.1%)	4 (8.3%)	5 (10.4%)	7 (14.6%)	10 (20.8%)	11 (22.9%)	11 (17.2%)
	計	48	48	48	48	48	48	64
合計	未実施	32 (19.4%)	4 (2.4%)	3 (1.8%)	2 (1.2%)	2 (1.2%)	1 (0.6%)	1 (0.5%)
	実施中	132 (80.0%)	155 (93.9%)	147 (89.1%)	143 (86.7%)	136 (82.4%)	131 (79.4%)	170 (82.9%)
	終了	1 (0.6%)	6 (3.6%)	15 (9.1%)	20 (12.1%)	27 (16.4%)	33 (20.0%)	34 (16.6%)
	計	165	165	165	165	165	165	205

未実施：平成18年度以降、一度も実施がない施策

実施中：平成18年度以降、実施した施策（平成18年度以降に施策を実施したが、都合により、ある年度は施策を実施していなくても、完了した施策ではないため実施中と計上）

完了：当該年度に完了した施策と過年度までに完了した施策

注)平成24年度に完了する施策数は現時点で不明のため、前年度までに完了した施策数を記載。

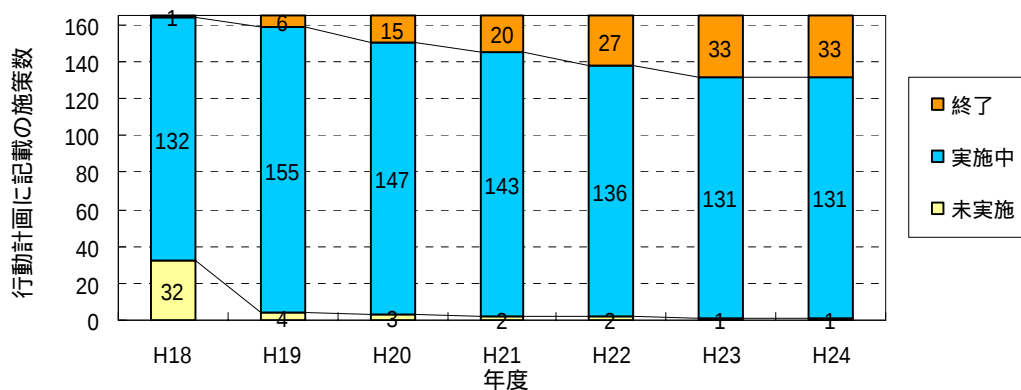


図 12 施策実施状況の推移

以下では、伊勢湾で実施されている一部の施策の実施状況を示す。

- ・ 各県市における着実な整備の推進により、人口普及率は順調に増加しており、陸域から伊勢湾への負荷削減に寄与している。

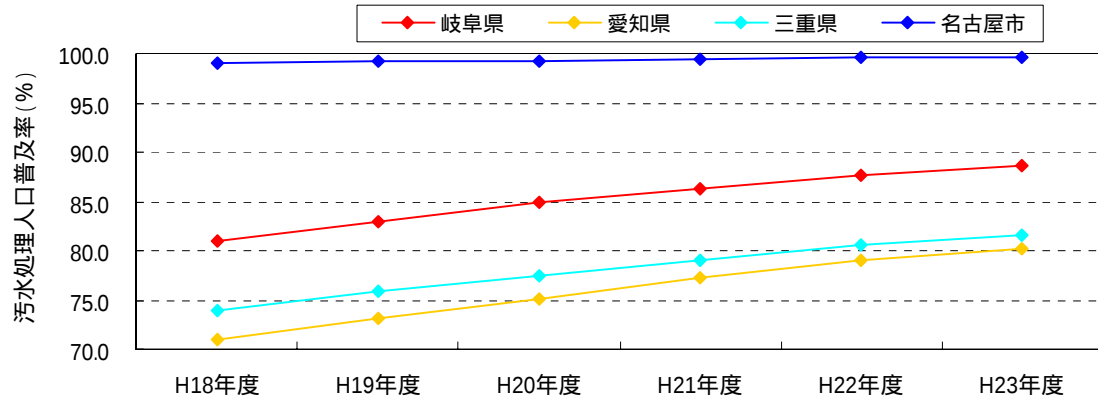


図 13 下水道整備率の推移

- ・ 伊勢湾内での干潟造成は毎年着実に実施されており、自然浄化能力の向上、生物生息環境の改善などに寄与している。

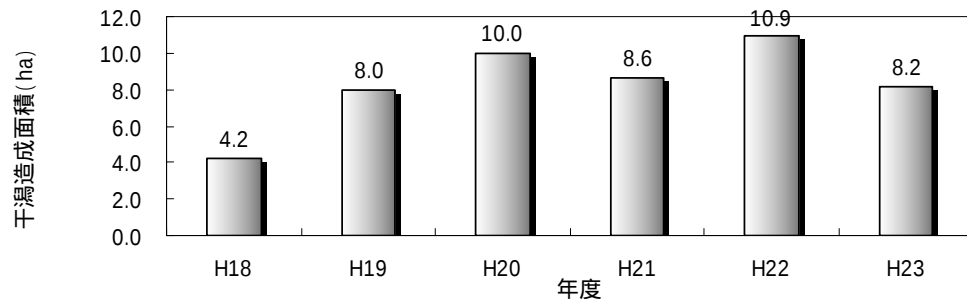


図 14 干潟造成面積の推移

- ・ 伊勢湾内での浮遊ゴミ回収量は毎年着実に実施されており、利用環境の向上、生物生息環境の改善などに寄与している。

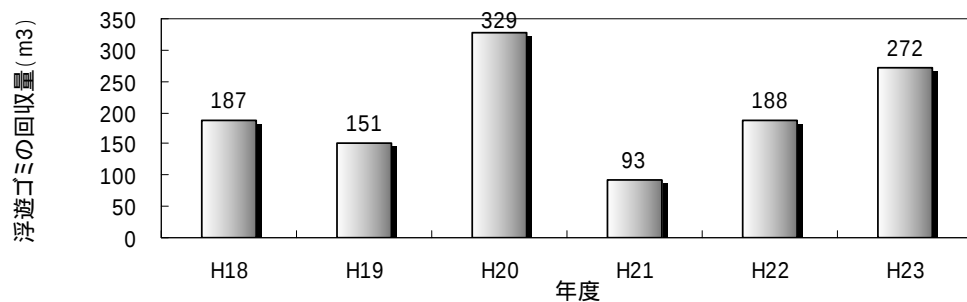


図 15 浮遊ゴミ回収量の推移

2.5 平成 24 年度伊勢湾再生に向けた主な取り組み報告

平成 24 年度第 8 回伊勢湾再生推進会議での発表案件は、下記のとおりである。

次頁に関係機関より報告いただいた平成 24 年度の取り組み一覧を示す。なお、詳細な取り組み内容は、参考資料に示す。

国

大分類	中分類	No	タイトル	作成機関	備考
森・川・海に共通する施策	流入ごみの削減、浮遊・漂着・海底ごみ、流木等の対策	8	漂着ごみ分類調査	第四管区海上保安本部	
伊勢湾再生のためのモニタリング	汚濁機構を解明するためのモニタリング	12	伊勢湾環境シミュレーターの開発	中部地整港湾空港部	

岐阜県

大分類	中分類	No	タイトル	作成機関	備考
森・川・海に共通する施策	関連事業	25	流域一体の河川清掃	岐阜県環境生活部	
沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	広報・啓発	28	上下流交流事業の実施	岐阜県環境生活部	

愛知県

大分類	中分類	No	タイトル	作成機関	備考
沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	広報・啓発	45	三河湾環境再生プロジェクト - よみがえれ！生きものの里“三河湾” -	愛知県環境部水地盤環境課	新規施策

三重県

大分類	中分類	No	タイトル	作成機関	備考
水質の改善・生物多様性の向上	水質・底質の改善	54	生物多様性・カーボンオフセットプログラム構築に向けた干潟・藻場造成効果の評価	三重県水産研究所	
森・川・海に共通する施策	海岸漂着物対策の推進	59	三重県における海岸漂着物対策の推進	三重県環境生活部	

名古屋市

大分類	中分類	No	タイトル	作成機関	備考
沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	広報・啓発	69	流域連携事業の実施	名古屋市上下水道局	

四日市港管理組合

大分類	中分類	No	タイトル	作成機関	備考
沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	環境学習	75	環境啓発活動の実施	四日市港管理組合	

表 2 平成 24 年度伊勢湾再生に向けた主な取り組み報告一覧 1/2

機関	場	大分類	中分類	NO	タイトル	実施部署	既往発表
国	陸域	陸域汚濁負荷削減に向けた施策	汚水処理事業 - 下水道事業	1	中部地下下水道中期ビジョン」を協働して改訂[案]作成	中部地整建政部	
			河川・湖沼事業	2	自然再生(木曽三川河口部)	中部地整河川部	
	海域	人と海とのふれあいの場の保全・再生・創出	にぎわいのある港湾空間の創出	3	「海域の物質循環健全化計画」検討委員会の開催	環境省中部地方環境事務所	有(第7回推進会議)
				4	みなとオアシスの認定	中部地整港湾空港部	
				5	運河の魅力再発見プロジェクトの認定	中部地整港湾空港部	
	森・川・海	森・川・海に共通する施策	流入ごみの削減、浮遊・漂着・海底ごみ、流木等の対策	6	「川と海のクリーン大作戦」	中部地整河川部	
				7	海洋環境船「白龍」による浮遊ごみの回収	中部地整港湾空港部	
				8	漂着ごみ分類調査	第四管区海上保安部	
		伊勢湾再生のためのモニタリング	水質事故への取り組み	9	水質保全連絡協議会	中部地整河川部	
				10	衛星画像及び測量船等の調査によるモニタリング	第四管区海上保安部	
				11	24時間水質自動観測システム	中部地整港湾空港部	有(第6回推進会議)
		伊勢湾環境シミュレーターの開発	環境監視及び汚濁機構の解明に寄与する取り組み	12	伊勢湾環境シミュレーターの開発	中部地整港湾空港部	
				13	海の再生全国会議の開催	中部地整港湾空港部	有(第5回推進会議)
				14	安心・安全な海域の創出	第四管区海上保安部	
		沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	広報・啓発	15	国営木曽三川公園における「環境教育」への取り組み	中部地整建政部	有(第7回推進会議)
				16	環境保全思想の普及・啓発	第四管区海上保安部	
				17	「三河湾流域圏会議」の開催	中部地整豊橋河川事務所	
		多様な主体による協働・連携	協働・連携	18	「ふれあいの森」制度を活用したボランティアによる森林づくり	中部森林管理局	
				19	市民ボランティアによる森林づくり「名古屋シティ・フォレスト事業」	中部森林管理局	
				20	藤前干潟協議会	環境省中部地方環境事務所	
				21	「生物多様性を支える市民・地域による戦略的地域づくりビジョン」の	環境省中部地方環境事務所	
				22	飛騨・美濃しまん農産物育成支援事業	岐阜県農政部	
岐阜県	陸域	陸域汚濁負荷削減に向けた施策	関連事業	23	畜産担い手育成総合整備事業	岐阜県農政部	有(第4回推進会議)
				24	生活環境美化対策事業の実施	岐阜県環境生活部	有(第4回推進会議)
	森・川・海	森・川・海に共通する施策	流入ごみの削減	25	流域一体の河川清掃	岐阜県環境生活部	
				26	木の国・山の国県民運動の展開	岐阜県林政部	有(第5回推進会議)
		沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	広報・啓発	27	清流の国ぎふつくり県民大会の開催	岐阜県環境生活部	
				28	上下流交流事業の実施	岐阜県環境生活部	
				29	カワゲラウォッチング普及推進	岐阜県環境生活部	
				30	「きふ田んぼの字校」活動事業の実施	岐阜県農政部	
		多様な主体による協働・連携	協働・連携	31	企業との協働による森づくり推進事業	岐阜県林政部	有(第4回推進会議) 有(第5回推進会議)
				32	「農地・水保全管理支払対策(共同活動支援交付金)」の実施	岐阜県農政部	有(第6回推進会議)
愛知県	陸域	陸域汚濁負荷削減に向けた施策	水質総量規制	33	工場・事業場排水規制	愛知県環境部	
			汚水処理事業	34	下水道事業「下水道普及と高度処理による伊勢湾の水質改善」	愛知県建設部下水道課	
			その他関連事業	35	「環境保全型農業推進事業」の実施	愛知県農林水産部	有(第7回推進会議)
				36	環境保全型農業直接支援対策	愛知県農林水産部	
				37	下水道事業「愛知県下水道科学館での下水道の普及啓発」	愛知県建設部下水道課	
				38	下水道事業「下水道出前講座」	愛知県建設部下水道課	
	海域	水質の改善・生物多様性の向上	水質・底質の改善 - 干潟・浅場の再生 -	39	「干潟・浅場造成事業」の実施	愛知県農林水産部	有(第5回推進会議)
			水質・底質の改善 - 貧酸素水塊の発生低減 -	40	三河湾 御津地区覆砂の実施	愛知県建設部	有(第6回推進会議)
			にぎわいのある海岸空間の創出	41	海岸保全計画に基づく「海岸環境整備事業」の実施	愛知県建設部	有(第6回推進会議)
	森・川・海	伊勢湾再生のためのモニタリング	にぎわいのある港湾空間の創出	42	衣浦港 高浜緑地の整備	愛知県建設部	
				43	水循環再生指標モニタリング	愛知県環境部	
				44	「あいち環境学習プラザ」等における環境学習の展開	愛知県環境部	
		沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	環境学習	45	三河湾環境再生プロジェクト-よみがえれ!生きものの里-三河湾-	愛知県環境部	新規施策
				46	連携・協働による水循環の再生	愛知県環境部	
				47	「あいち海上の森保全活用事業」の実施	愛知県農林水産部	有(第7回推進会議)

表 3 平成 24 年度伊勢湾再生に向けた主な取り組み報告一覧 2/2

機関	場	大分類	中分類	NO	タイトル	実施部署	既往発表
三重県	陸域	陸域汚濁負荷削減に向けた施策	水質総量規制	48	「第7次水質総量削減」の実施	三重県環境生活部	
			汚水処理事業	49	生活排水処理施設の整備推進	三重県環境生活部	有(第4回推進会議)
			森林整備事業	50	森林整備の重点的・計画的な実施	三重県農林水産部	有(第4回推進会議)
			その他関連事業	51	農地・水・環境保全向上対策＜共同活動支援交付金＞	三重県農林水産部	有(第4回推進会議)
				52	「環境保全型農業直接支払い事業」の実施	三重県農林水産部	新規施策
	海域	水質の改善・生物多様性の向上	水質・底質の改善	53	水域環境保全創造事業	三重県農林水産部	有(第4回推進会議)
				54	生物多様性・カーボンオフセットプログラム構築へ向けた干潟・藻場造成効果の評価	三重県水産研究所	
			生物多様性の向上	55	アサリ資源回復促進技術開発事業	三重県水産研究所	
				56	里海を創出する環境対応型黒ノリ養殖技術開発	三重県水産研究所	
				57	里海を創出する環境対応型黒ノリ養殖技術開発	三重県水産研究所	
	森・川・海	人と海とのふれあいの場の保全・再生・創出	にぎわいのある海岸空間の創出	57	侵食対策事業	三重県県土整備部	有(第4回推進会議)
				58	海岸美化ボランティア活動推進事業	三重県県土整備部	
		森・川・海に共通する施策	流入ごみの削減、浮遊漂着海底ごみ、流木等の対策	58	海岸美化ボランティア活動推進事業	三重県県土整備部	
				59	三重県における海岸漂着物対策の推進	三重県環境生活部	有(第7回推進会議)
		沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	環境学習	60	「みえ・川の健康診断事業」の実施	三重県環境生活部	
				61	環境・生態系保全活動支援事業	三重県農林水産部	
名古屋市	陸域	陸域汚濁負荷削減に向けた施策	水質総量規制	64	水質規制指導	名古屋環境局	
				65	下水道事業による「水環境向上施策」を実施	名古屋市上下水道局	有(第7回推進会議)
				66	なごや東山の森づくり	名古屋市緑政土木局	
				67	緑化地域の指定	名古屋市緑政土木局	有(第6回推進会議)
	森・川・海	伊勢湾再生のためのモニタリング	環境監視のためのモニタリング	68	水質常時監視	名古屋環境局	
				69	流域連携事業の実施	名古屋市上下水道局	有(第5回推進会議)
				70	水質環境目標値市民モニタリング	名古屋環境局	
				71	湧き水モニタリング	名古屋環境局	有(第7回推進会議)
				72	堀川市民調査	名古屋市緑政土木局	有(第6回推進会議)
				73	「港湾環境整備事業」中川運河地区緑地(中川口、昭和橋、堀止)	名古屋港管理組合	
名古屋港管理組合	海域	人と海とのふれあいの場の保全・再生・創出	にぎわいのある港湾空間の創出	73	「港湾環境整備事業」中川運河地区緑地(中川口、昭和橋、堀止)	名古屋港管理組合	
				74	「四日市港定期水質調査」及び「埋立事業に伴う環境監視」	四日市港管理組合	
四日市港管理組合	森・川・海	伊勢湾再生のためのモニタリング	環境監視及び汚濁機構を解明するためのモニタリング	74	「四日市港定期水質調査」及び「埋立事業に伴う環境監視」	四日市港管理組合	
				75	環境啓発活動の実施	四日市港管理組合	

表 4 完了した施策一覧（参考）

機関	場	大分類	中分類	NO	タイトル	実施部署	既往発表
国	海域	沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	広報・啓発	76	安心・安全な海域の創出(救命胴衣着用キャンペーン)	第四管区海上保安部	
岐阜県	森・川・海	沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	広報・啓発	77	第30 回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～の取り組み	岐阜県農政部	有(第7回推進会議)
			環境学習	78	ぎふ地球環境大学養成講座	岐阜県環境生活部	
愛知県	陸域	陸域汚濁負荷削減に向けた施策	その他関連事業	79	「ふるさと水と土ふれあい事業」	愛知県農林水産部	
				80	資源循環型畜産推進事業補助金	愛知県農林水産部	
				81	農業ゼロエミッション推進事業	愛知県農林水産部	
	海域	水質の改善・生物多様性の向上	水質・底質の改善	82	「海の恵み育成・啓発推進事業」の実施	愛知県農林水産部	
				83	三河港 深掘跡の埋め戻しの実施	愛知県建設部	
		人と海とのふれあいの場の保全・再生・創出	にぎわいのある港湾空間の創出	84	三河港 大塚海浜緑地の整備	愛知県建設部	
				85	吉田港 ポートパーク整備事業の実施	愛知県建設部	
			砂浜の保全・再生	86	伊良湖港海岸 海岸環境整備事業の実施	愛知県建設部	有(第5回推進会議)
	森・川・海	沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	広報・啓発	87	「あいちの水産企画展」の開催	愛知県農林水産部	
			生活排水対策の普及啓発	88		愛知県環境部	
		森・川・海に共通する施策	環境学習	89	「水田水質浄化機能評価事業」の実施	愛知県農林水産部	
			流入ごみの削減、浮遊・漂着・海底ごみ、流木等の対策	90	漁場クリーンアップ事業	愛知県農林水産部	
三重県	陸域	陸域汚濁負荷削減に向けた施策	その他関連事業	91	「(舞)みえの食・安心安全確立推進事業」の実施	三重県農水商工部	
	海域	人と海とのふれあいの場の保全・再生・創出	にぎわいのある港湾空間の創出	92	港湾環境整備事業(鳥羽マリンタウンプロジェクト)	三重県県土整備部	
		水質の改善・生物多様性の向上	水質・底質の改善	93	赤潮・底泥対策技術開発事業	三重県水産研究所	
	森・川・海	伊勢湾再生のためのモニタリング	汚濁機構を解明するためのモニタリング	94	伊勢湾沿岸域における底質調査	三重県環境森林部	有(第6回推進会議)
			伊勢湾再生にむけたガバナンス研究	95	自然資源の持続的な管理のあり方	三重大学大学院生物資源学研究所	
			環境監視及び汚濁機構解明に寄与する取り組み	96	「みえのうみ」環境保全活動支援事業	三重県農水商工部	有(第4回推進会議)
		沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成	環境学習	97	環境パートナーシップ推進事業	三重県環境森林部	
				98	地域から発信！環境教育実践事業	三重県環境森林部	
			広報・啓発	99	「みえのうみ」環境保全活動支援事業	三重県農水商工部	
		多様な主体による協働・連携	協働・連携	100	「漁民の森づくり活動推進事業」を展開	三重県環境森林部	
				101	～想いをかたちに～ 宮川プロジェクト	三重県政策部	有(第4回推進会議) 有(第6回推進会議)
名古屋市	陸域	陸域汚濁負荷削減に向けた施策	河川・湖沼事業	102	清流ルネッサンス	名古屋市緑政土木局	

【森・川・海に共通する施策】

『流入ごみの削減、浮遊・漂着・海底ごみ、流木等の対策』

第四管区海上保安本部

漂着ごみ分類調査

1. 目的：漂着ごみの実態を調査することにより、小・中学生および一般市民等に対する海洋環境保全普及・啓発を図るとともに今後の漂流・漂着ごみ対策にかかる施策にかかる施策検討のための基礎データを収集することを目的とする。
2. 過年度までの取り組み状況
 - 【平成19年度の実施状況】
 - ・実施回数5回（四日市吉崎海岸等）、参加人数676人（地元小学生等）
 - 【平成20年度の実施状況】
 - ・実施回数6回（鳥羽市白浜海岸等）、参加人数611人（地元小学生等）
 - 【平成21年度の実施状況】
 - ・実施回数4回（常滑市鬼崎海岸等）、参加人数872人（地元小学生等）
 - 【平成22年度の実施状況】
 - ・実施回数4回（常滑市鬼崎海岸等）、参加人数820人（地元小学生等）
 - 【平成23年度の実施状況】
 - ・実施回数4回（常滑市鬼崎海岸等）、参加人数463人（地元小学生等）
3. 今年度の取り組み状況
 - ・実施回数3回（常滑市鬼崎海岸等）、参加人数406人（地元小学生等）
4. 取り組み結果・評価
 - ・主な取組み事例

常滑市鬼崎海岸で地元小学校生徒が総合学習の一環として、漂着ごみ分類調査及び海浜清掃を実施した。

 - ・日時場所：平成24年5月31日、愛知県常滑市住吉町鬼崎海岸
 - ・実施機関：鬼崎北小学校、第四管区海上保安本部警備救難部環境防災課
中部空港海上保安航空基地、地元ボランティア
 - ・参加者数：343名



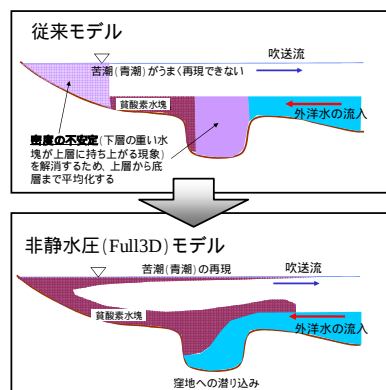
写真：漂着ごみ分類調査及び海浜清掃

【伊勢湾再生のためのモニタリング】 『汚濁機構を解明するためのモニタリング』

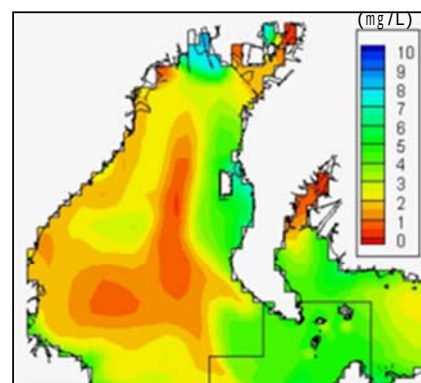
中部地方整備局港湾空港部

伊勢湾シミュレーターの開発

1. 目的：伊勢湾の水質改善に向けた取組みを行う際に、その効果を定量的かつ信頼性の高い手法で把握する必要がある。近年のコンピューターの性能向上により、従来のモデルでは難しかった最新の知見を取り入れることが可能となってきたため、生態系も計算によって評価するなど、客観的な手法によるシミュレーション・プログラム「伊勢湾シミュレーター」を開発することとした。
2. 過年度までの取り組み状況
 - ・平成19年度から伊勢湾環境のシミュレーションモデルの開発を行い、伊勢湾のルールとなることを目指した「伊勢湾シミュレーター」の基本モデルが完成した。
 苦潮（青潮）の湧昇の再現性を向上するため、流動モデルとして非静水圧3次元方式を導入した。
 適切な生物循環を再現するため、微生物食物網を組み込んだ底生系・浮遊系を結合させた生態系モデルを導入した。
 適切な地形を表現するため、可変格子法（VM）と水平格子組立法（BCM）を選択可能とした。
3. 今年度の取り組み状況
 - ・伊勢湾シミュレーターについて、地形の細分化など精度向上に向けたパラメーターの見直しを行うと共に、各環境施策の定量的評価に関する手法検討を行ない、実用性を向上させた。
4. 取り組み結果・評価
 - ・シミュレーション・プログラムを、平成24年5月よりダウンロードできるようにした。



特徴：非静水圧モデルによる貧酸素水塊の湧昇現象の再現が可能



アウトプットイメージ：伊勢湾の底層溶存酸素濃度分布の計算結果

【森・川・海に共通する施策】

『関連事業』 岐阜県環境生活部

流域一体の河川清掃

1. 目的

流域の環境保全団体等と関係機関との連携によって河川清掃の協働体組織を形成し、流域一体の河川清掃活動に取り組むことで、流域ごとの河川清掃モデルの確立と県民の河川環境保全意識の向上を図る。

2. 過年度までの取り組み状況

○平成23年度

長良川流域年末清掃プロジェクト（岐阜県主催）

- ・実施日：平成23年12月11日（日）
- ・実施場所：郡上市、岐阜市、海津市
- ・参加人数：各会場合計 285名 ・回収量：472kg（全体）

3. 今年度の取り組み状況

長良川、揖斐川の2流域において活動団体等のネットワーク化を推進し、長良川流域の河川清掃活動と揖斐川流域の河川清掃に向けた準備活動をそれぞれ支援。この活動に連動し、別途、県管理河川内の樹木伐採や大型ゴミの撤去を実施。

<長良川流域>

- ・実施日：平成24年12月1日（日）
- ・実施場所：郡上市、岐阜市、海津市・桑名市
- ・参加人数：各会場合計 246名 ・回収量：3,258kg（全体）

<揖斐川流域>

- ・平成25年5月の流域清掃実施に向けた準備活動を支援

4. 取り組み結果・評価

- ・流域の環境保全団体等と関係機関との連携体制の構築に繋がった。
- ・清掃活動を通じて、流域住民が互いのつながりを再認識し、河川環境保全意識の向上に繋がった。
- ・今後、県内の他流域へもこの取り組みを拡大していく計画。



中流域（岐阜市）での清掃活動の様子



下流域（桑名市）での清掃活動の様子

【沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成】

『広報・啓発』

岐阜県環境生活部

上下流交流事業の実施

1. 目的

上下流域の地域住民や次世代の担い手となる子どもたちが、森川海のつながりや相互の自然環境等に理解を深め、自然と積極的に関わる姿勢や環境保全意識を育む。

2. 過年度までの取り組み状況

○平成23年度

・上下流域の親子を対象として、県内外の森川海で環境学習や環境保全意識等のプログラムを行う上下流交流ツアーを13回実施し、514人が参加。

行先：岐阜市、高山市、郡上市、揖斐川町、名古屋市、蒲安市、津市、射水市

3. 今年度の取り組み状況

・上下流域の親子を対象として、県内外の森川海で環境学習や環境保全意識等のプログラムを行う上下流交流ツアーを17回実施し、430人が参加。

	主なプログラム	行 先
夏 (7-9月)	川遊び、シーカヤック体験、水辺（河川・干潟）の生き物観察、外来植物駆除、海岸清掃、間伐体験 等	高山市、中津川市、恵那市、郡上市、揖斐川町、名古屋市、津市、鳥羽市
秋・冬 (10-12月)	水辺の生き物観察、水族館バックヤード見学、森林散策、ネイチャークラフト、間伐体験、水と暮らす町並み散策 等	各務原市、中津川市、郡上市、下呂市

4. 取り組み結果・評価

・ツアー参加者へのアンケートでは、「自然とふれあう機会となった」、「親子で体験を共有できた」など、ツアーに参加してよかったという意見も多くみられ、ツアーを通して、相互の自然環境の状況やその保全の大切さ、流域の生活文化等への理解を深め、環境保全意識の醸成を図ることができた。



高山帯でのセイヨウタンポポ（外来種）駆除活動



源流域での水生生物観察



海岸清掃活動

【沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成】 『広報・啓発』

愛知県環境部

三河湾環境再生プロジェクト - よみがえれ！生きものの里“三河湾”

1. 目的

県民、NPO等団体、市町村及び愛知県が一体となって三河湾の環境再生に向けた取組の機運を高めるため、三河湾の里海再生に向けた調査活動、生物多様性について学ぶ機会の提供、NPO等団体の活動支援、他県の取組を踏まえたシンポジウムの開催などの事業を展開する。

2. 過年度までの取り組み状況

平成21年度から干潟モニタリング調査、22年度から県民参加の干潟観察会を実施。

3. 今年度の取り組み状況

(1) 里海再生に向けた調査活動

- ・干潟モニタリング調査：汐川干潟及び白谷海岸で年4回の調査を実施。
- ・県民参加の里海調査：蒲郡市竹島海岸及び西尾市東幡豆海岸で「干潟の生きもの観察会」を開催。

(2) 生物多様性について学ぶ機会の提供

三河湾沿岸の生物多様性について学ぶ体験型セミナーを8～9月に4回開催。

(3) NPO等団体の活動支援

三河湾の沿岸における水質浄化等に関する7団体の活動を支援。干潟や磯での生きものの観察・触れ合い、地元の海の幸の試食会、干潟の清掃活動、ワークショップなどの12イベントを5月から10月にかけて実施。

(4) 他県の取組を踏まえたシンポジウム

平成24年8月18日、豊橋市公会堂において「三河湾環境再生シンポジウム～琵琶湖とともに三河湾を考える～」を開催。

[第1部] パネル発表・交流：NPO等団体（愛知県15団体、滋賀県5団体）

[第2部] 基調講演：嘉田滋賀県知事「人々と共に歩む環境政策を目指して」

事例発表：NPO等団体（愛知県3団体、滋賀県2団体）

知事対談：嘉田知事、大村知事「琵琶湖とともに三河湾を考える」

4. 取り組み結果・評価

NPO等団体、市町村及び愛知県による事業が連携して実施された結果、環境活動の拡大や活性化が図られ、三河湾環境再生の取組の機運を高める大きな契機となった。

今後も引き続き、三河湾を身近に感じていただけるよう各主体と連携した取組を一層推進していく必要がある。



三河湾環境再生シンポジウム(知事対談)

【水質の改善・生物多様性の向上】

『水質・底質の改善』 三重県水産研究所

生物多様性・カーボンオフセットプログラム構築へ向けた 干潟・藻場造成効果の評価

1. 目的:

陸域では、森林等のCO2固定能が定量的に評価され、企業がカーボンオフセットの概念を導入して、森林再生等の環境保全活動を支援するシステムが構築されつつあります。一方で、海も高い生物生産性やCO2固定能があるといわれながら、具体的な調査や研究は立ち後れ、沿岸漁場環境再生に企業等が支援する仕組みはまだありません。干潟や藻場が大きく減少した伊勢湾や英虞湾では、豊かな生態系の回復を図り、健全な物質循環を取り戻すことが急務です。今後、漁場環境再生事業を効率的に展開していくには、生物多様性オフセットやカーボンオフセットの観点から企業等が支援しやすい仕組みを構築する必要があります。本研究では、伊勢湾を対象に、既存の干潟やアマモ場において、CO2固定能や水質浄化機能を定量的に評価し、オフセット制度導入に向けた基準づくりを行います。

2. 過年度までの取り組み状況

- ・伊勢湾御殿場海岸を対象に、既存の干潟やアマモ場において、CO2固定能（図-1）と水質浄化機能を定量的に評価しました。

3. 今年度の取り組み状況

- ・伊勢湾御殿場を対象に、既存の干潟やアマモ場において、CO2固定能（図-1）と水質浄化機能を定量的に評価しました。

4. 取り組み結果・評価

- ・干潟直上水の2潮汐間の観測の結果、伊勢湾北部海域の水質浄化機能は、542gN/ha/年の窒素を分解していることが分かった（図-2）。



図-1 干潟のCO2固定量の観測

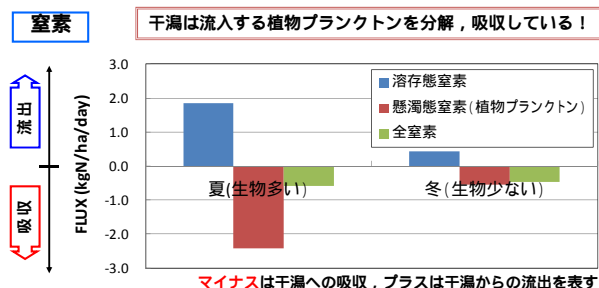


図-2 干潟の水質浄化機能季節変化

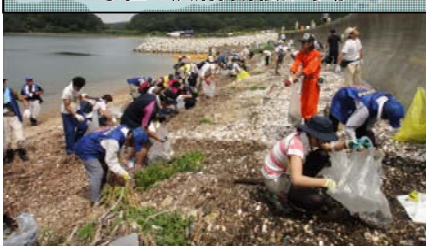
【森・川・海に共通する施策】

『海岸漂着物対策の推進』 三重県環境生活部

三重県における海岸漂着物対策の推進

1. 目的：美しい海岸の景観や環境の保全に向け、さまざまな主体の相互協力と役割分担のもと、森・川・海のつながりを大切に海岸漂着物対策に取り組んでいくことをめざして地域計画を策定するとともに、三県一市の連携による伊勢湾流域圏での海岸漂着物対策に取り組む。
2. 過年度までの取り組み状況
 - ・平成21年11月～22年10月 海岸漂着物実態調査を実施
海岸クリーンアップ調査（伊勢湾内14海岸、各8回）、河川ゴミ調査（伊勢湾流域21河川、各8回）、海岸概況調査（県内93海岸、1回）ほかを実施
 - ・平成23年7月 普及啓発体験型イベントの開催（吉崎海岸、参加者32名）
（吉崎海岸の清掃と回収した漂着物を用いたクラフト作成）
 - ・平成24年1月 三県一市知事市長会議において海岸漂着物対策の連携に合意
 - ・平成24年3月 シンポジウム開催（名古屋国際センター）
 - ・平成24年3月 「三重県海岸漂着物対策推進計画」の策定
3. 今年度の取り組み内容
 - ・海岸漂着物による被害の現状をさまざまな機会をとおして周知
 - ・海岸漂着物対策に係る広域連携の推進
 - ・海岸漂着物モニタリング調査を実施
4. 取り組み状況・結果
 - ・平成24年4月 伊勢湾総合対策協議会に海岸漂着物対策検討会を設置
 - ・平成24年6月 鳥羽市答志島で海岸漂着物対策検討会の現地研修会を開催し、NPO主催の清掃活動に参加（H24.9月に行われた清掃活動にも参加）
 - ・平成24年10月 三県一市担当者とNPO等の民間団体との意見交換会を開催
 - ・平成24年11月 海岸漂着物対策の推進について国に提言活動を実施（H25.1にも実施）

H24.9 奈佐の浜清掃活動に参加



H24.10 NPOとの意見交換会



活動内容等について説明を受ける様子

H25.1 国への提言活動を実施



三県一市を代表して、鈴木三重県知事が秋野環境大臣政務官に伊勢湾の海岸漂着物の現状や課題等について説明

普及啓発の取組



三重県県広報誌「県政だより・みえ」平成24年8月号に海岸漂着物の特集ページを掲載

【沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成】 『広報・啓発』

名古屋市上下水道局

流域連携事業の実施

1. 目的：

木曽三川流域の自治体が連携し、将来にわたり水環境を保全していく。
2. 過年度までの取り組み状況

「木曽川さんありがとう」、「木曽三川水源林保全体験」、「水処理ネットワーク」、「エコ市」などの上下流交流を実施するとともに、「流域自治体シンポジウム」、「メッセ」などの流域自治体連携事業を実施した。
3. 今年度の取り組み状況
 - ・ これまでの事業を引き続き実施した。
4. 取り組み結果・評価
 - ・ 木曽川さんありがとう

名古屋市上下水道局給水区域のお客さまが水源地を訪れ、保全活動として清掃活動を実施した。
 - ・ 木曽三川水源林保全体験

名古屋市上下水道局給水区域の小学生が水源地を訪れ、間伐などの保全活動を通じて水環境の保全を学んだ。
 - ・ 水処理ネットワーク

木曽川上流部に下水処理施設を持つ自治体と水処理に関する情報や技術を交換した。
 - ・ エコ市

上中流域の経済振興を支援するため、流域自治体を中心となって、農作物や特産品等を販売する市(伊)を鍋屋上野浄水場や鳴海配水場で実施した。
 - ・ 第3回流域自治体シンポジウム

平成22年に発信した「流域自治体宣言」を踏まえ、「第3回流域自治体シンポジウム」を開催し、流域連携の方策について意見を交換し合った。
 - ・ メッセ(ビジネス・サミット2012)

上中流域の経済振興を支援するため、上中流域の生産者と下流域の仕入れ企業との商談の場を創出する「ビジネス・サミット2012」を開催した。



第3回 流域自治体シンポジウム



ビジネス・サミット2012

【沿岸域および流域の人々の海への関心の醸成】 『環境学習』

四日市港管理組合

環境啓発活動の実施

1. 目的：

干潟のいきもの観察会やエコクルーズ等の環境啓発活動を通じ、四日市港を含む伊勢湾の海域環境の現状や改善のための取り組みを認識してもらうことで、地域住民の環境保全意識の向上を図り、海域環境の改善、伊勢湾再生に貢献する。

2. 過年度までの取り組み状況

【平成 22 年度の実施状況】

- ・実施回数 6 回、参加人数 88 名

【平成 23 年度の実施状況】

- ・実施回数 7 回、参加人数 136 名

3. 今年度の取り組み状況

平成 24 年度は四日市港における各種の環境啓発活動を 6 回開催し、延べ 123 名の参加があった。うち、主なものは次のとおり。

- ・干潟のいきもの観察会（平成 24 年 5 月 19 日）参加人数 62 名
- ・四日市港エコクルーズ（平成 24 年 11 月 10 日）参加人数 12 名

4. 取り組み結果・評価

- ・いきもの観察会では、四日市港の港湾区域に残された高松干潟でアサリや、アナジャコ等の底生生物の観察や解説を行い、干潟の持つ水質浄化機能を学習した。
- ・四日市港エコクルーズでは、港内の透明度の観測やパックテストによる簡易水質測定を実施し、内湾の水質の現況を知ってもらうと共に、海域への汚濁負荷削減の重要性を学習した。



写真：いきもの観察会



写真：四日市港エコクルーズ

3. 環境劣化メカニズム（汚濁機構）・再生メカニズムの解明・整理に向けて

3.1 汚濁機構解明に向けた水質調査

陸域から伊勢湾への排出付加量を把握するため、平水時および出水時に水質調査を実施している。これまで、平成 22 年度に木曽川と庄内川（平水時、出水時）、平成 23 年度に矢作川と豊川（平水時、出水時）に水質調査を行い、平成 24 年度には雲出川と日光川（台風 17 号に伴う出水時）の水質調査を行った。

今後は、水質調査が行われていない河川において調査を進めるとともに、ここで得られたデータ等を伊勢湾シミュレータなどのシミュレーションに用いるなど、汚濁機構解明に向けた取り組みを推進する必要がある。

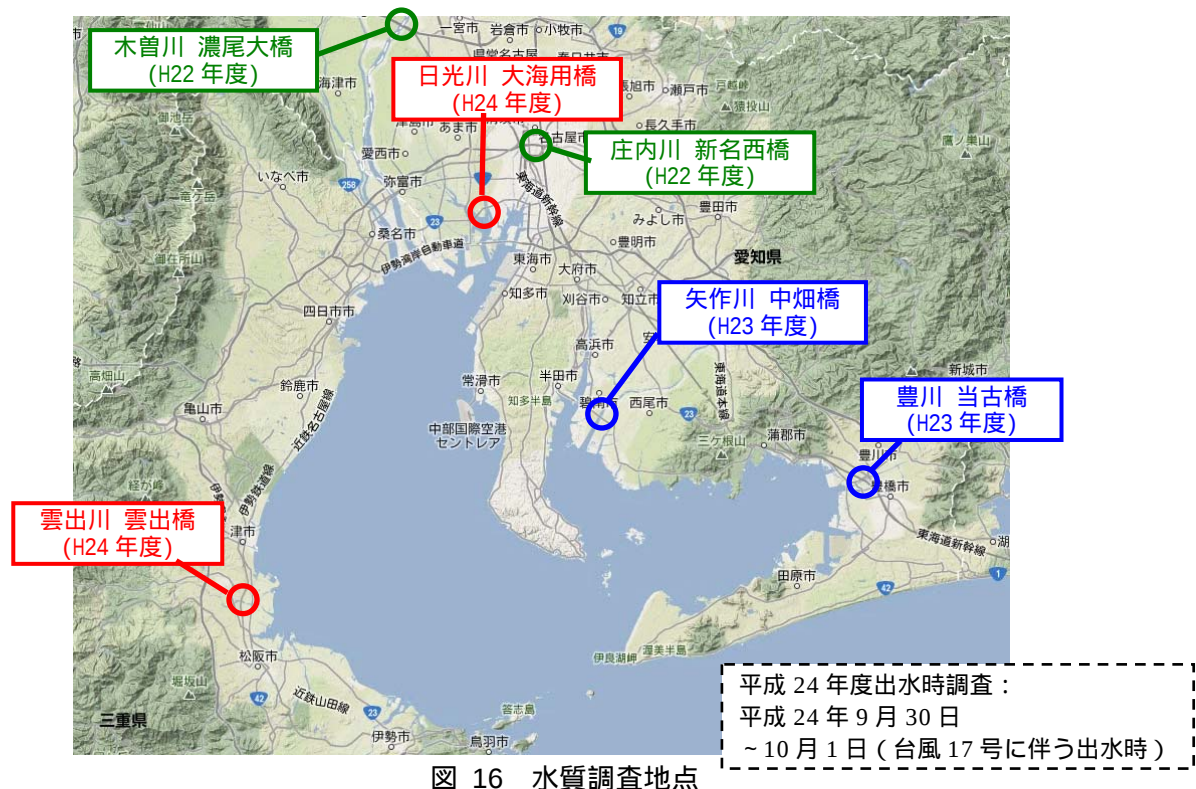


図 16 水質調査地点

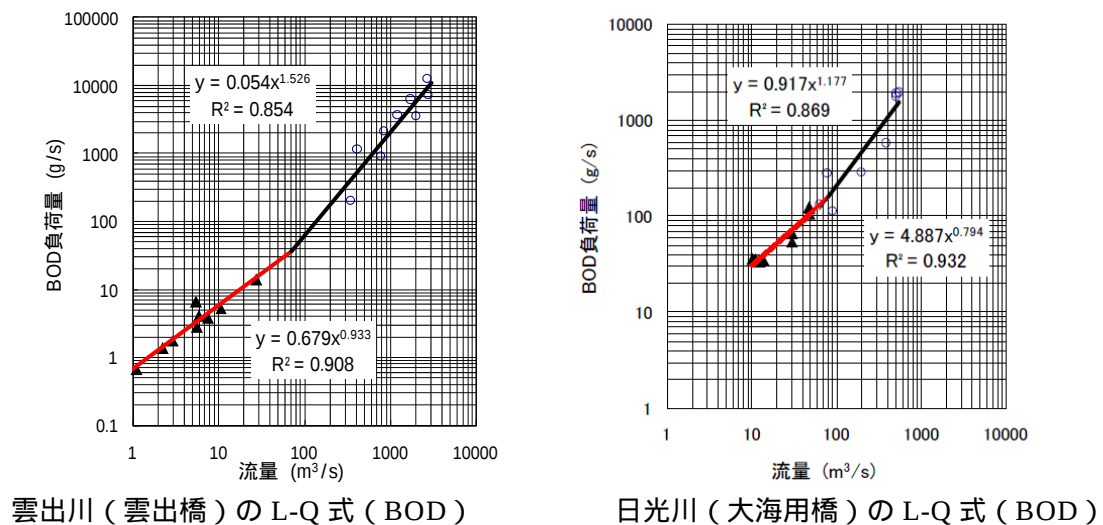


図 17 水質調査から把握した L-Q 式

4. 多様な主体との連携促進

4.1 研究者、NPO、市民団体との情報交換・連携

4.1.1 平成 23 年度

(1) 伊勢湾再生流域研究会との連携

平成 20 年度に始まった「伊勢湾再生流域研究会」(学のコソシアム)において、行動計画及び取り組みの紹介を行う等、情報提供を行った。

また、名古屋大学を中心とした、自然共生型を目指す水循環から生態系にいたる総合系の相互作用の修復をにらんだ環境管理技術の開発に取り組みが行われており、評価モデルの構築もされている。この研究会等で構築した評価モデルを用い、陸域の数値シミュレーションを実施した。



図 18 伊勢湾再生流域圏研究会の状況

(2) 第 6 回海の再生全国会議への出席

国土交通省が主催し、各湾における施策の情報共有・発信、市民等との連携・協働の推進等を目的として開催される「第 6 回海の再生全国会議」(平成 24 年 1 月 16 日)において、伊勢湾再生推進会議として後援するとともに、関係行政機関として参加した。



図 19 第 6 回海の再生全国会議の様子

4.1.2 平成 24 年度

(1) 伊勢湾流域圏再生ネットワークとの連携

伊勢湾流域圏再生ネットワークに所属する NPO、市民団体等に「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」開催の情報発進に協力いただく等の連携を行った。

伊勢湾流域圏再生ネットワークが主催し、アドバイザー、NPO 等が参加して意見交換を行う「伊勢湾流域圏再生ネットワークの方向性検討会」(平成 24 年 7 月 27 日)において、関係行政機関として参加し、意見交換を行い、参考とした。

伊勢湾流域圏再生ネットワークの世話人会のメンバーと、アピールエリア等について意見交換を行った。(平成 24 年 10 月 25 日)

伊勢湾流域圏再生ネットワークが主催し、NPO、市民団体等が参加して意見交換を行う「伊勢湾流域圏再生フォーラム」(平成 25 年 3 月 2 日)において、関係行政機関として参加し、情報共有を行った。なお、伊勢湾流域圏一斉モニタリングの概要・実施状況について、情報提供を行った。



図 20 方向性検討会の状況



図 21 世話人会との意見交換の状況



図 22 伊勢湾流域圏再生フォーラムの様子

(2) 伊勢湾再生流域圏研究会との連携

平成 20 年度に始まった「伊勢湾再生流域研究会」(学のコソシアム)の研究会メンバーと、アピールエリア等について意見交換を行い、参考とした。(平成 24 年 10 月～11 月)

また、名古屋大学を中心とした、自然共生型を目指す水循環から生態系にいたる総合系の相互作用の修復をにらんだ環境管理技術の開発の取り組みが行われており、評価モデルの構築もされている。この研究会等で構築した評価モデルを用いて、汚濁機構の解明に向けての検討等に本年度も活用している。

(3) 第 13 回東京湾シンポジウムへの出席

国土技術政策総合研究所が主催し、東京湾再生に向けた考え方、関係者の役割分担のあり方を考える上で参考となる事例を共有するとともに、次期行動計画の進捗を見守り、加速していく仕組みづくりの提案をすることを目的として開催される「第 13 回 東京湾シンポジウム」(平成 24 年 11 月 22 日)に関係行政機関として参加した。

(4) 第 7 回海の再生全国会議への出席

国土交通省が主催し、各湾における施策の情報共有・発信、市民等との連携・協働の推進等を目的として開催される「第 7 回海の再生全国会議」(平成 25 年 2 月 25 日)において、伊勢湾再生推進会議として後援するとともに、関係行政機関として参加した。



図 23 第 7 回海の再生全国会議の様子

4.2 平成 24 年度伊勢湾流域圏一斉モニタリング

伊勢湾流域圏一斉モニタリングを以下の要領で実施した。今回は 4 回目であり、多くの行政機関・市民団体に参加いただき、昨年度よりも多くの地点でモニタリングが行われた。なお、調査結果報告書については、伊勢湾再生推進会議ホームページ上にて公開している。

○調査概要

平成 24 年 7 月 25 日～平成 24 年 8 月 27 日（統一実施日 8 月 1 日）

- ・行政機関は、主に通常の水質調査の一環として実施
- ・市民団体等は、主に簡易測定キットを事務局から配布し、実施

伊勢湾再生推進会議では、この夏、「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」を行います。美しく豊かな伊勢湾を再生するためには、流域圏が一体となって取り組むことが大切です。

伊勢湾流域圏で活動されるみなさんのご参加を募集いたします。




伊勢湾流域圏一斉モニタリングとは

みなさんと、流域圏の自治体などが、夏の期間に一斉に川や海の水質調査を行います。

海の水質が悪くなりやすい夏の時期に一斉にモニタリングを行うことで、伊勢湾流域圏全体の水環境の状態を知ることができます。

※伊勢湾流域圏とは、伊勢湾と伊勢湾に流れ込む河川の集水域となっている地域のことです。（右の図の水色および緑色で示した部分）

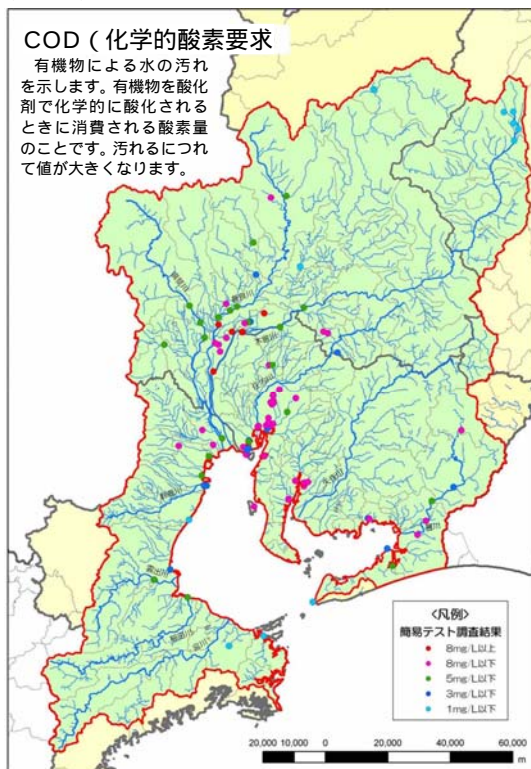


図 24 NPO 等への呼びかけ文

<一斉モニタリング結果の例>

経年的に大きな変化は見られない。簡易水質調査は、平成 22 年度は宮川の上流～中流地点で多く実施されているが、それ以外の年は実施されておらず、調査実施地点に面的な偏りがあるといえる。今後、他機関の実施するモニタリング調査との連携等により、調査の空白地帯を低減できるものと考えられる。

〔H21〕



〔H22〕



〔H23〕



〔H24〕



図 26 COD (簡易水質テスト結果)

5. 取り組み方針と結果 対比表

5.1 平成 23 年度の取り組み方針と結果

【方針】平成 23 年度の取り組み方針	【結果】平成 23 年度の取り組み結果
行動計画の推進・フォローアップ ・ 行動計画を着実に推進し、施策の進捗管理を行う ・ 次期中間評価（平成 25 年度）に向け必要な基礎データの集約を行なう ・ 「中間評価結果」、「環境劣化・再生メカニズムの整理」、「市民団体等との連携」等の実態を踏まえ、行動計画の見直しを行なう	行動計画の推進・フォローアップ ・ 各機関の施策取り組み状況の集約 ・ 行動計画の中間評価に必要な基礎データの集約 ・ 伊勢湾全体の数値目標（案）およびアピールエリア（案）の検討
環境劣化メカニズム(汚濁機構)・再生メカニズムの解明・整理に向けて ・ モニタリング計画に従い、伊勢湾流域圏の水質等の監視を行なう ・ 伊勢湾シミュレーター等を活用して汚濁機構・再生メカニズムを検討する	環境劣化メカニズム(汚濁機構)・再生メカニズムの解明・整理に向けて ・ 陸域モニタリング計画（案）に従い、水質等の監視を実施 ・ 矢作川と豊川で水質調査を実施し、汚濁負荷量の算出及び汚濁機構解明に向けた基礎データを収集 ・ 陸域数値シミュレーションモデルを用いて、陸域から海域へ流入する負荷量の把握、行動計画最終年度（平成 29 年度）の水質改善期待を算出
多様な主体との連携促進 ・ 研究者、NPO、市民団体との情報交換・連携を継続する ・ 「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」の継続	多様な主体との連携促進 ・ 伊勢湾再生流域研究会、海の再生全国会議、一斉モニタリング等を通じて、研究者、NPO、市民団体との情報交換・連携を継続して実施 ・ 「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」を実施

5.2 平成 24 年度の取り組み方針と結果

【方針】平成 24 年度の取り組み方針	【結果】平成 24 年度の取り組み結果
行動計画の推進・フォローアップ ・行動計画を着実に推進し、施策の進捗管理を行う ・次期中間評価（平成 25 年度）に向けた評価方法の検討と必要な基礎データの集約を行う ・中間評価により把握した課題について検討し、行動計画の見直しを行う。	行動計画の推進・フォローアップ ・各機関の施策取り組み状況の集約 ・行動計画の中間評価に必要な基礎データの集約と評価マニュアル案の作成 ・伊勢湾全体の数値目標（案）およびアピールエリア（案）の検討 ・行動計画の本文の見直しを実施
環境劣化メカニズム(汚濁機構)・再生メカニズムの解明・整理に向けて ・モニタリング計画に従い、伊勢湾流域圏の水質等の監視を行う ・伊勢湾シミュレーター等を活用して、汚濁機構・再生メカニズムを検討する。	環境劣化メカニズム(汚濁機構)・再生メカニズムの解明・整理に向けて ・陸域モニタリング計画（案）に従い、水質等の監視を実施 ・雲出川と日光川で水質調査を実施し、汚濁負荷量の算出及び汚濁機構解明に向けた基礎データを収集 ・陸域数値シミュレーションモデルを用いて、陸域から海域へ流入する負荷量の把握、行動計画最終年度（平成 29 年度）の水質改善期待を算出 ・伊勢湾シミュレーターを用いた汚濁メカニズムの検討と行動計画最終年度（平成 29 年度）の水質改善期待を算出
多様な主体との連携促進 ・研究者、NPO、市民団体との情報交換・連携を継続する ・「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」の継続	多様な主体との連携促進 ・伊勢湾流域圏再生ネットワーク、伊勢湾再生流域圏研究会、海の再生全国会議、一斉モニタリング等を通じて、研究者、NPO、市民団体との情報交換・連携を継続して実施 ・「伊勢湾流域圏一斉モニタリング」を実施